（別紙4）　　平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170103705		
法人名	有限会社ウインドワード		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	岐阜市梅林南町12番地　1F		
自己評価作成日	平成22年6月26日	評価結果市町村受理日	平成22年9月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170103705&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル
訪問調査日	平成22年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員は資格を持っている人は少ないが、ケアーに関してはすぐれていると思っている。今後も今以上に力を入れていきたい。又ホームは場所が梅林公園の前であり、四季のうつりかわりもよく感じることができ、散歩も利用者の方がつかれない距離でホームの周りの環境がよい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

4階建てマンションの1階部分を改修したホームである。道を挟み梅林公園やコンビニが近くにある。管理者や職員は『老いを笑うないずれ私も通る道』と、利用者を暖かく支えている。定員6名と1ユニットのホームであるが、家族が疎遠であったり重度化している利用者が多く、開設当初のように利用者と共に出かけたり一緒に行うことが困難な状況が続いている。地域との交流に努力を続けているものの、成果が出ていないが、今後も根気よく働きかけ、ホームへの理解や関心を高めていきたいとしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「老いを笑うないずれ私も通る道」の気持ちを持ち、玄関にもかかげ、毎日それを見ながら管理者と職員は理念を実践している	高齢になっても住み慣れた地域で暮らせ、一人暮らしの高齢者もホームを訪れ同じ時間を持てるよう暮らしの支援を目指した理念を掲げている。管理者・職員は、現在の利用形態が理念とかい離していることを認識している。	重度化する利用者が多い中、今後のホームの目指す方向性を管理者・職員間で検討されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、行事には出るようにしているが、日常的な付き合いは、あまりできていない。ただし、前の公園に散歩に行き、出来る限り、交流がもてるようにしている	地域とは自治会長の交代時に挨拶のため訪問したり、民生委員や近隣者にも、地域の一人暮らし高齢者にホームで食事を食べてもらうよう働きかけを続けている。今のところ、訪れる高齢者は無いが、認知症の人の暮らしぶりを見てもらいたいと機会あるごとに案内している。	更には、近隣の商店等に顔を出し、理解をしてもらうことから始める等、工夫を重ねながら少しずつでもホームの応援者を広げられたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一人暮らしの方や、昼間一人で、寂しい人にホームの方で一緒に食事でもの声掛けを民生委員の方にもお願いはしてあるが、現実としては、まだ、無理である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、参加してくださる方が決まってはいるが、いろいろな意見を下さり、サービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年2回しか開催できなかったが、今年度は2ヶ月毎に開催計画を立て実施してきいる。市・包括支援センター・民生委員と管理者の参加で、家族や地域の他の役員等の参加は得られてない。	地域住民の理解を深めるためにも、毎年交代する自治会役員にも根気よく出席の依頼を続けることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携は、市の方が困られるぐらい、連絡、相談等、密に取っている	介護保険課をはじめ福祉課担当職員とは、連携が取れている。身寄りが無い利用者や家族関係の薄れた利用者が多く、常に行政と連携をとり、利用者へのサービス提供を相談しながら実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、職員も身体拘束の件は正しく理解している。ただ、現在どうしても、拘束を必要とする人がみえるためやむを得ず行なっている	身体拘束について、職員は話し合い、理解している。実施の際の取り決めもシートで確認し、家族からの同意を取っている。状態の改善が困難で、やむを得ない拘束が長期にわたっている利用者がある。	24時間継続的に点滴の指示が出ている利用者があり、同意もあって3時間毎の体位交換の実施もあるものの、長期間ミトンを着用している。寝たきりで拘束感があるため、さらなるケアの工夫が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者も職員もそのようなことがないよう、お互いに注意を払っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、管理者は少しは学んでいるが、もっと、学ぶ必要がある。関係者の人と話し合ったこともある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は、需要事項を読みながら説明を行ない、質問があれば、答える事をしている。十分理解してもらっていると思う		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方の要望は、よく聞くようにしているが、家族の方からはなかなか聞くことが出来ない。面会がほとんど無いため、こちらからの電話が多い	利用者がホーム入居前から一人暮らしであったり、利用者家族が血縁の遠い関係であったりして、家族がホームを訪れることはほとんど無い。ホーム管理者は家族からの意見を聞く努力を行っているが、情報の収集が充分に行えず、家族アンケートの返送もない。	家族からは、ホームからの報告を望む声はあるが、ホーム行事参加やホーム訪問依頼への協力は得られていない。利用者が重度化しており、家族の意見を聞きだす更なる工夫が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月１０日は会議を行い、いろいろな意見を聞くようにしている。又利用者の方の状態等、意見、相談会をおこなっている	毎月1回の会議は、全職員が意見を出す機会として、全員が参加できる体制を作っている。管理者と職員は話しやすい関係がつくられていおり、常に意見交換し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も一緒に働いている為、職員の方のことも、把握していると思っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員も高齢者が多く研修も機会が少なく若い人達に受ける機会をつくるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流する機会を作ってあげられない		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず面談、アセスメントを行い、本人との会話等を大切にしている。入居の時は趣味、特技等を書いていただくようにもしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の話し気持ち等をよく聴き受け止め理解するよう心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の事業所で受け入れていただけない人が多く、同情してしまう時があり、代表者が自分自身で困っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族として職員も過すよう心がけ、出勤して来たら「ただいま」帰るときは「いってきます」の挨拶をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のない人が多く、入居されたら、面会に来られない人等で、なかなか無理なことが多い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、電話の取りつぎ等で支援に努めている	自分での電話対応が困難な利用者がほとんどである。入居前は、ひとり暮らしで地域住民や地域との交流が余りなく、身寄りのない利用者が多い。職員との馴染みの関係を築きながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方の身体も考えながら、皆で食堂にて、会話されたりしてもらうよう心がけている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて努めているが、ほとんどの人が、看取りのため、そのような事があれば行なう用意はある		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前との変化を少なく本人の希望を取り入れながら生活して頂くよう心がけている。毎月１０日の会議のときも話し合い検討している	入居前の面接や入院先・ケアマネジャーからの情報で、本人の希望等を把握している。自分で述べることが困難な利用者については、身振りや表情から読み取ったり、職員会議で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人暮らしや、入院生活だった人が多く、困難な事が多いが、１日１日の生活の中で把握するよう心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で、一人ひとり違いはあるが、その人の出来る事など（洗濯物を畳むことなど等）お願いしたりしながら生活していただいている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の時に話し合いながら、介護計画を作成するようにしているが、家族との話し合いはできていない。作成した後に目を通していただき意見を聞く場合はある	ケアマネジャーが週に2・3回来所し、利用者の様子を把握し、毎月の会議で全職員が参加し、介護計画を検討している。3ヶ月に1回モニタリングし、計画を作成し直している。計画作成前、家族に電話や文書の発送で確認するが、回答の得られない場合が多く、作成後の報告となることが多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日記録は記入し１日の事がすべて分かるようになっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの利用者の方にあった介護が出来ていると思う		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや民生委員の方達とは交流を持っているが、他の事はなかなかできない。以前は美容院に行っていた人も現在は無理な状態で月に一度位、銀行に一緒に行く人はいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族、かかりつけ医、ホームと提携している病院と相談の元、ホーム入居後どうして行くか決定している	協力医は月2回、看護師も月2回、ホームを訪問し連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者１人１人の細かい状態を把握し、医師、看護師、来訪時に報告、緊急の場合は、電話で指示を頂くなど、常に情報交換をおこなっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、その後の治療方針、経過を元に、家族、病院と相談を行うよう、努めている。病院関係者との関係つくりも、できていると思う		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明させて頂き、利用者、家族の意見を把握し、利用者の状態に合わし、かかりつけ医との相談も行いながら、支援している	重度化や終末期の利用者も多い。入居時、家族や関係者に嚥下の機能低下が見られた場合の、ホームの方針を説明している。身寄りのない利用者については市（福祉課）とも連絡を密にし、対応している。これまでに何例か看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個人、個人に指導はしているが、職員全員を集め訓練をしていないため、今後月１度の会議の中に取り入れていくようかんがえている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議の課題で話し合ったり、避難経路を使用できなかった場合など、どうするか、常に話し合いを行うようにしている。ホームの存在を地域の方に知ってもらい、協力して頂けるようお願いしている	ホームは4階建のビルの1階にあり、ビル全体に防火設備があり、ビルとしての対応もある。ホームの台所を火元であると想定し、年間2回の避難訓練を実施している。地域住民の協力を得るため、ホームの場所を地域住民に伝える努力を行っている。	重度の利用者が多く、火災の際の避難訓練は消防署に指導を仰ぎながら実施している。さらには、職員以外の人々の協力が得られるよう地域への働きかけの継続も期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ交換のさい、周りには分からないよう、配慮し、名前の呼び方など、どのようによばれたいかなど自前に聞いておくなど考慮している	利用者を尊重し、丁寧な言葉かけをするよう職員間で確認している。職員間で、個々の性格や傾向を把握し、利用者一人ひとりに合った支援の方法で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かして頂く場合など、押し付けるのではなく、自分で選択して頂くよう、支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意識表示が出来ない人も十分考えて、介護度の高い方は、職員の都合を優先してしまうことが有るが、出来る限り、利用者のペースに副い生活して頂けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服など自分で選ばれたり、地域の方に頂いた服など、ほしい物を選んで着て頂いたり、自分で出来る限り身だしなみを整えていただけるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現状、台所に立ち作業できる利用者の方が見えない為、難しいが、食後の食器など寄集めてくださったり、布巾をもっていくと、拭いて頂けたりと自然な姿は見られる	ダイニングに集まり、家庭的な雰囲気の中で食事を取っている。見守りの必要な利用者や刻み食、トロミ食の利用者が多く、その人に合った献立を考えている。調理に参加することが困難な利用者が多いが、机拭き等できる範囲で協力している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、刻み食、ミキサー食、利用者の状態に合わし、取得できるよう支援し、水分補給の時間を決め、しっかりと確保できるよ支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自立にて行なえる方は、朝、夕の口腔ケア見守りを行い清潔につとめ、介助の方は、毎食後入れ歯を、洗浄するようにしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の近い方や失禁の多い方には、ポータブルトイレなどを、使用して頂くなどし、支援してる	入居当初は職員が常に居る居間の近くの部屋で過ごしてもらい、排泄のリズムを把握し、支援することにしている。利用者の状態の変化も詳しく観察し、できるだけ清潔に過ごせるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在、便秘などで困っている方はみえず。そのような方がみえる場合は、医師と相談の上行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合になってしまう場合もあるが、出来る限り利用者の希望に副うようおこなっている	家庭用の浴槽で、現在の利用者の身体状況では、浴槽をまたぐ等が困難なため、全員シャワー浴となっている。シャワー浴も困難な場合は、清拭や部分浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度調整をおこなっている。常に体調に気を配り、休息していただいたりと、支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が替わったときなど、医師、薬剤師の方にしっかりと説明を受け、全職員に説明を行ない、利用者の状態に目を配るよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わし、出来る範囲で、居室内の掃除、利用者どうしで、洗濯物を畳んで頂くなど支援し、体調、天候に合わし、散歩、買い物に出かけられるよう、支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状難しいが、ホーム内の利用者の状態も変化してきている為、今後の課題とし考えていきたい	気候が良ければ、24時間点滴を受けている利用者以外は、ホーム前の公園に散歩等に出かけているが、十分に出来ていない。自分で歩くことを拒否する利用者や買い物で混乱する利用者もあり、個別の対応をしている。	重度の利用者が多いが、少しでも外気に当たる等、外出への支援が期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使用する機会は少ないが、家族の見えない方など、銀行に一緒に行き、キャッシュコーナーでおろすなど、出来る限りの支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状、希望される利用者の方が見えない為、今後、利用者の状態に合わし、支援していく		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、清潔を保ち、季節の花を飾ったり、果物を飾ったりし、目で見て癒される空間造りに心がけている	民家改造型のホームで、段差等が残っているが、車椅子対応に改修されている。玄関からホームの全体が見渡せ、どこも掃除が行き届き清潔である。週に2日、職員が一斉にホーム内を掃除している。色々な行動が困難になってきている利用者と共に、できるところだけ参加してもらい、季節の飾り物などを作り、楽しい空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自居室にみえても、ホーム自体小さいため、何らかの声などは聞こえ、居間やリビングに来れば、必ずスタッフ一人はいるようになっている為、不安等あまり感じられることは無いと思う		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、出来る限り、今まで使用していた物を持ってきていただくよう、お願いし、あまり変化の無いよう支援している。仏壇等持参のかたもいる	仏壇や馴染みの物を持ち込んだり、私物のない利用者にはタンスや引き出し等ホーム側で用意する場合もあり、利用者の性格、特徴、身体機能にあった備品を配置し、居心地よく過ごせるような居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	筋力の衰え防止のため、通路手すりなしにし、各居室の前には、本人の好きな花等を折り紙で折り、かける等している		